

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 5月 7日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームあつたかハウス伊集院 (鹿児島県)
-------------------	-------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>山下 賀子</u> 氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 管理者 計画作成担当 事務長 介護老人保健施設副施 氏名 高田由子 町田大介 牧元秀保 大崎慎哉 ヒアリングを行った職員数 <u>6</u> 名

※記入方法 <ul style="list-style-type: none">●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。
※項目番号について <ul style="list-style-type: none">●外部評価項目は30項目です。<ul style="list-style-type: none">○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。
※用語について <ul style="list-style-type: none">●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4673000107号		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム あったかハウス伊集院		
所在地	鹿児島県日置市伊集院町下神殿 1 3 6 6 - 1 (電 話) 099-272-7577		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯 4 - 2 - 6		
訪問調査日	平成20年5月7日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】 (平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 12月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 13人, 非常勤 人, 常勤換算 1.3

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,720 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	1 名	要支援 2			
年齢	平均 84.6 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは医療法人を母体とし、同系列の他6グループホーム間の交流もあり連携が図られていることも、家族の安心材料となっている。
職員はチームワークも良く、大家族になったという感覚で喜んでもらえるようケアの質の向上を目指し、自己研鑽意欲も高い。地域住民との交流にも力をいれ、老人会グループの定期的訪問交流もみられる。
食事の前には、嚥下障害を起こさないように、発声練習などをとり入れ楽しく食事を取れる工夫や、お茶の時間は、メニュー表から好みの飲み物を選ぶようにするなど、入居者が生き生きと生活できる取り組みを重ねている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	内部外部研修も充実し、記録も整備されている。重度化や終末期に向けた方針の共有に関して、ホームの対応法を明確にし改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し、自己評価が自らのケアを振り返る契機となるように、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、消防訓練の計画も話し合い、地域の方の参加を呼びかけ協力体制を築いている。又、ホーム便りについての要望も取り入れながら、家族に喜ばれるよう工夫している。外部評価の報告も行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に、家族の意見や要望等なんでも話せるよう、積極的に声かけを行っている。家族会で出された意見は、スタッフ全員で取り組んで解決策を明示しながら運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の行事に参加したり、中学生の福祉体験学習の受け入れを行っている。3ヶ月毎に地域交流会を行い、バスで老人会グループの訪問も有り、入居者との食事会やレクリエーションを一緒に楽しむ機会を設けている。また、防火訓練への地域の方の参加も見られ地域住民との交流の場を多く作っている。

2. 評価結果 (詳細)

主任調査報告書 山下賀子 / 調査員 福留 昭

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」という従来の理念に加え、「あったか地域であったか交流、みんなで作ろう、あったかの輪」という地域密着型サービスの役割を目指した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	理念は玄関やリビングに掲示すると共にミーティング時や申し送り時に唱和、確認し合い、理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し花見や運動会に参加したり、福祉体験学習や中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。3ヶ月毎に地域交流会を行い、バスで敬老グループの訪問があり、カラオケ、誕生会、食事会、敬老会、忘年会など一緒に楽しめる機会作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、自己の振り返りを行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの活動内容や行事内容、ホーム便りへの要望、消防訓練の方法等出席者の意見や要望を取り入れながら地域の方も参加できるよう検討している。		


外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議以外にも連絡を取り合い、社会福祉協議会から行事やレクリエーションの道具をかりたり、ボランティアの紹介、行事への参加など、積極的な連携作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会行事参加時に、暮らしぶりや近況報告をしている。各担当者が毎月お便りで状況を伝えたり、「あったか便り」を発行している。金銭出納帳も毎月家族の面会時に確認してもらいサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見や要望等何でも話してもらえるよう積極的に声かけを行ったり、意見箱も設置している。家族会で出された「転倒予防」についてもスタッフ全員で取り組み、対応策を説明し家族の意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新入職者は入居者や家族に紹介し、信頼関係を築くよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、外部研修は職員が交代で参加し、研修報告書を作成して伝達講習も行っている。内部研修は毎月1回職員全員でテーマを決め勉強会を行い、資質の向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内7ヶ所のグループホーム間で月1回研修会を開き、管理者と介護支援専門員の2名が参加している。日置地区交流研修会に参加したり、個人で他のホームに行き情報交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合、本人、家族と一緒にホームを見学してもらっている。レクリエーションに参加したり、お茶を飲みながら、他の入居者や場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、野菜作り、漬物作りや干し大根の作り方を教わりながら、一緒に過ごし学び支え合う関係を大切に支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に沿った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族から意向や希望を聞いたり、受け持ちの職員を中心に情報収集した気づきや問題点を、ミーティング時に意見交換を行い、入居者個々の特徴を捉えた個別具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1回の見直しと、状態変化時は随時見直しを行っている。アセスメント表に具体的項目をあげ、各勤務で記入する方法をとり、1ヶ月毎に評価を行い介護計画の共有化も図っている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い、本人の意向に沿った通院の支援を行っている。又、3ヶ月毎に地域の老人会の方々を招き、食事会やカラオケ、敬老会等皆で楽しめる場としての柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」が作成されている。重度化した場合や終末期のあり方については、入居時の説明と家族会で医師から説明されている。ホームの方針としては、急変時にその時の状況を見ながら主治医、家族、職員で話し合い方針を決めケアすることで統一されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、個人情報の保護やプライバシーの確保に留意し、面会簿を個別に変更したり、自尊心を大切に声かけや対応の仕方を職員に指導し、実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態やその日の気分を大切に、食事や入浴の時間をずらしたり、墓参りや買い物、散歩に行ったりと、本人のペースに合わせて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて、食事の下ごしらえ、調理、盛り付け、片付け、誕生会のケーキ作りなどできることを分担して職員と一緒にしている。手作りの野菜で季節感を味わってもらったり、年2回全員で外出に出かけ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は本人の意向を確認しながら、毎日入浴する入居者もあるが、週3回の入浴を支援している。拒否の強い方には、スタッフを代えて時間をずらした声かけや清拭で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、台拭き、はり絵の他、漬物、切干大根、梅干、オヤツ作りなど個々に合わせた支援を行っている。お茶や食事前の体操も、発声練習、身体体操、連想ゲームなど取り入れ、生き生きと取り組まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は希望に応じて、庭先でお茶会をしたり、散歩や買い物、ドライブ、墓参りなどに出かけている。公園での花見や、年2回の外食支援も行い外出する機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関共に鍵をかけず、自由な暮らしができるよう支援している。帰宅願望の強い方には、職員付きで自宅まで外出したり散歩することで気分転換を図りながら、見守りを重視した支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は毎回設定を変え、夜間を想定した訓練も行っている。訓練時は近隣の地域住民の方にも参加を呼びかけ、協力を依頼している。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は個々の状況に合わせてながら、キザミ食等の工夫がみられる。食事量、水分量を把握し協力病院の管理栄養士にアドバイスをもらっている。水分補給のために、お茶の時間は飲み物のメニュー表をみて好きなものを注文してもらい、楽しみながら補水ができるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花や入居者の手作り作品が飾られている。ソファやタタミ部屋もあり、明るく居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、冷蔵庫、家族の写真や手作りの作品等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。